

## 1. 命題論理

### 1.1 構成要素

命題：文（世界について述べている文）

#### 記号と式

論理記号（命題結合子）：論理演算子を表す.

$\neg$ ,  $\wedge$ ,  $\vee$ ,  $\Rightarrow$ ,  $\Leftrightarrow$

$\neg$	否定	—でない	NOT
$\wedge$	連言（論理積）	—かつ～	AND
$\vee$	選言（論理和）	—または～	OR
$\Rightarrow$	含意（条件文）	—ならば～	IF ～ THEN
$\Leftrightarrow$	同値（双条件文）	—のときのみ かつ そのときのみ～	

基本論理式（命題変数）：基本命題を表す.

$X$ ,  $Y$ , ……などで表す. 正式には,  $X_0$ ,  $X_1$ ,  $X_2$  ……と表す.

合成論理式：論理記号と基本論理式で合成される式.

$P$ ,  $Q$ がすでに定義された式ならば,  $\neg P$ ,  $P \wedge Q$ ,  $P \vee Q$ ,  $P \Rightarrow Q$ ,  $P \Leftrightarrow Q$ も式である.

論理記号の結合の範囲を明示するため括弧を必要に応じて用いる.

#### 帰納的定義

- (1) 命題変数を素式という. 素式は論理式である.
- (2)  $P$ が論理式あれば,  $\neg P$ は論理式である.
- (3)  $P$ ,  $Q$ が論理式であれば,  $P \wedge Q$ ,  $P \vee Q$ ,  $P \Rightarrow Q$ ,  $P \Leftrightarrow Q$ は論理式である.
- (4) 以上, (1), (2), (3) より論理式とわかるものだけが論理式である.

#### 結合の強さ

$\neg$ ,  $\wedge$ ,  $\vee$ ,  $\Rightarrow$ ,  $\Leftrightarrow$

この順位により, 誤解の生じない範囲で括弧を省略できる.

### 1.2 文の記号化

例：

(1) 雨が止んだし気温も上がった.

「雨が止んだ」を  $X$ , 「気温が上がった」を  $Y$  とすれば,

$$X \wedge Y$$

(2) 雨が止んで暖かくなったらハイキングへ行く.

「ハイキングに行く」を  $Z$  とすれば,

$$(X \wedge Y) \Rightarrow Z$$

(3) 寝るか食べるかすれば元気になる.

「寝る」を  $X$ , 「食べる」を  $Y$ , 「元気になる」を  $Z$  とすれば,

$$(X \vee Y) \Rightarrow Z$$

(4)  $n$ が2より大きい素数ならば  $n+1$ は素数でない.

「 $n$ が2より大きい」を  $X$ , 「 $n$ が素数である」を  $Y$ , 「 $n+1$ が素数である」を  $Z$  とすれば,

$$(X \wedge Y) \Rightarrow \neg Z$$

「 $n$ が2より大きい素数である」を  $U$  とすれば,  $U \Rightarrow \neg Z$

### 1.3 真理値

命題は真か偽の値を持つ.

真 (true) : T

偽 (false) : F

真理値表

$P$	$\neg P$
T	F
F	T

$P$	$Q$	$P \wedge Q$	$P \vee Q$	$P \Rightarrow Q$	$P \Leftrightarrow Q$
T	T	T	T	T	T
T	F	F	T	F	F
F	T	F	T	T	F
F	F	F	F	T	T

基本命題に任意にT, Fの1つを与えると, 式の真理値が求まる.

真理値の計算例: ※各自で値を入れてみることに.

$P$	$Q$	$\neg P \vee Q$	$((P \Rightarrow Q) \wedge P) \Rightarrow Q$	$P \wedge \neg (\neg P \Rightarrow Q)$
T	T			
T	F			
F	T			
F	F			